

総看だより

第4号

愛知県立総合看護専門学校
同窓会会報
2012年8月1日



平成24年度 入学式

挨拶 同窓会会長

学校長



同窓会会長

鈴木 邦子

同窓会会員の皆様いかがお過ごしでしょうか。昨年は東日本大震災が発生し、医療活動における看護の役割の大きさを実感しました。会員の皆様の中には現地で災害看護活動に携われた方もおいでになります。災害看護に従事された方々の活動を通じて、看護職の役割の大きさを多くの人々が感じられ

たのではないのでしょうか。

看護職の活動の場はどんどん広がっていますし、働き方も多様になってきました。会員の皆様の活躍の場も全国に広がっています。

総看だよりを通じてそんな会員の皆様の活動の一端をお伝えしてきました。

その活躍に負けずにそれぞれの場所で精一杯看護に取り組み、看護の素晴らしさを示していきたいでしょう。

昨年の学校祭にはお子さんと一緒に参加されている同窓生の方がみえました。総看の歴史の長さを感じました。

ますます学校が発展するように皆様のご支援をお願い致します。同窓会の皆様のご活躍とご健勝をお祈りいたします。



学校長

村瀬 裕子

今年は「評価」の年です。

同窓会会員の皆様、暑中お見舞い申し上げます。総看は昨年2011年に創立40周年を迎え、新たなスタートをきっております。

今年の3月には、新しいカリキュラムを履修した初めての卒業生を第39回生として送り出しました。今年度は、この新カリキュラムの評価

を行い、基礎教育での看護技術がより定着するための教育内容・方法について検討する予定です。

また、今年度は第2回目の学校の自己点検・自己評価を行い、「学校評価報告書」としてまとめる予定で、現在、準備を進めております。

併設の看護研修センターでは、14種類の研修会を開催し、多くの看護職員の方々にご活用いただいております。開設以来今年度で10年目を迎えることから、各研修事業の評価を行うとともに、10年間のまとめに向けた準備を進めてまいります。

今後も看護基礎教育、看護職員継続教育の充実に努めてまいりますので、同窓会会員の皆様には引き続きご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

平成24年度 同窓会總會のご案内

日時：11月17日(土)
13:00～15:30

会場：名古屋第二赤十字病院
研修センター

会費：無料

≪日程≫

12:30～13:00…受付

13:00～13:45…総会

13:45～14:00…休憩

14:00～15:30…講演

≪講演内容≫

テーマ

「あなたを輝かせる
素敵な声の育て方」

同窓会總會講演「あなたを輝かせる素敵な声の育て方」

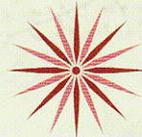
患者さんや職場内での同僚とのコミュニケーションを取る際にコミュニケーションスキルは欠かせませんが、声の魅力や声の重要性について気付いている人が少ないのが現状です。声の育て方、それは、あなたの耳と背骨に秘密があります。緊張を解き、豊かな響きで説得力のある声を育てて行きましょう。

プロフィール：シャンソン・カンツォーネを中心としたレパートリーで銀巴里、ジャンジャンなどにレギュラー出演。現在もノンジャンル歌手として活動を続けている。またボイストレーニングクラス「マミズボイススタイル」を主宰。トマティス聴覚カウンセラーの資格取得後、聴覚心理音声学をベースにした豊かなコミュニケーションのための独自のボイストレーニングや、トラウマを抱えた人たちへのケアボイスワークなど活動は多岐に渡っている。



濱田 真実
(はまだまみ)

災害救護活動に参加



国際救援活動

第一看護科 第25回生

名古屋第二赤十字病院 吉鶴 由紀子

就職したときは、自分の10年後は？不安と期待が入り混じる中、名古屋第二赤十字病院で働き始めたのを覚えています。色々な人に出会い、国際救援の一員としてハイチ・ジンバブエなどで救援活動を経験させていただきました。

色々な国の看護師と出会う機会があり、一緒に活動しましたが、看護の基本は変わらず活用できるということを感じました。

まだまだ、勉強の毎日ですが、頼もしい仲間を支えられながら頑張っています！



災害支援

第二看護科 第10回生

柘訪問看護ステーション 神田 春美

訪問看護を始めて、在宅での看取りも300件を超え、グリーフケアの重要性を強く感じるようになった頃、宮城県沖で巨大地震が発生した。

残された家族が行方不明の家族を探すために、沢山の遺体を見なくては行けない。せめて安らかな状態で見てもらいたいと思い、『エンゼルケアに行きたい!』と願った。運よく、(死亡確認のための)医師団の派遣に同行することになったが、予定は変更され、3月22日、福島県いわき市の避難所に行く事になった。

避難所生活は、極めて厳しい状況の上、津波で家族を亡くした遺族は、悲しみを癒していく場所もその過程も奪われている状況であった。身体・精神的ケアを行いながらグリーフケアも必要だった。

1年が経ち、私は被災状況を多くの人に伝える事、地域の災害対策に取り組む事、この災害を忘れない事で支援を続けていこうと思う。



愛知県こころのケアチーム災害支援活動

第四看護科 第22回生

あいち小児保健医療総合センター 山腰 伴子

私は「愛知県こころのケアチーム」の看護師として被災地に行く機会を得ました。7月10日から7日間、医師を含む3人でチームを作り、気仙沼市内の避難所を回りながら被災者の話を傾聴するという活動をしました。海沿いにある建物は、殆どすべて流され、瓦礫からは強い魚の腐敗臭があり害虫も発生していました。

避難所の生活環境は、我々の想像以上に悲惨な状況でした。被災者の訴えは非常に重く、辛くてやりきれなく苦しんでいることが容易に窺えました。それでもなお周囲の人を気遣い、思いやり、耐えている被災者の姿は、本当に心打たれました。

私は、今なお復活しようと頑張っている被災地を応援し続けたいと思っています。

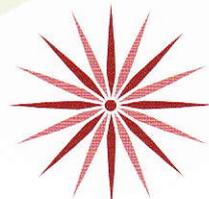


第二看護科 第11回生

心身障害者コロニー こぼと学園 中尾 ひろみ

震災から1ヶ月後、私は愛知県の「こころのケアチーム」の一員として宮城県の気仙沼市に派遣され、被災された方々の支援にあたる機会を得ました。現地の避難所を巡回する中で、ストレスからくる不眠や倦怠感を訴える現状を目の当たりにしました。私に出来ることは、被災された方々の心に寄り添い、静かに思いに耳を傾けることでした。その方々の現在抱えている生活上の悩み、不安などを少しでも伺うことで、皆様の表情が徐々に穏やかになるのを実感しました。

派遣されたのは4日間でしたが心のケアの重要性を痛感しました。ここで感じたこと忘れずに今後の支援に生かしていきたいと思えます。



自分らしく 看護師を 続けています



校庭の桜

自分のペースで仕事復帰

第一看護科 第5回生
浦門千加子 (旧姓：村瀬)

結婚と同時に離職し、三女の保育園入園と、共にパートとして職場復帰しました。

子供が、学校から帰って来たら「おかえり」と言ってやりたい事、自分自身の趣味 週一回のママさんバレーを続けたい事、

同居の義母を買い物、病院に連れて行く事と今の私には、週三日のパートが、良いバランスをとってくれています。

職場では、認知症のお年寄りの介護の難しさに悩みながらも、笑顔だけは絶やささないよう頑張っています。これからも自分の健康に注意しながら、もう少しこの生活を続けていきたいと思っています。



子育て奮闘中

外来の看護師として

第一看護科 第25回生
近藤 葉子 (旧姓：石田)

私は、8年前から自宅近くの眼科診療所で働いています。2児(4年生・年長)の子育て中で、働くお母さんです。

子ども達は、それぞれ1歳から保育園で見てもらっています。子育て・家事との両立のため、診療所での勤務を選びました。毎日の仕事の中で心がけていることは、親切・笑顔です。県総の授業で、講師の先生に「外来看護師は、その病院の第一印象となる。親切・笑顔であるのが良い」と教えていただいたのが、私の中に強く印象に残っているのです。実際、地元密着の小さな眼科診療所ではありますが、「眼科初めてなんです・・・。」と不安そうに受診される患者さんがたくさんいらっしゃいます。どんな小さな、医療従事者にとっては慣れた病気でも、患者さんにとっては、大変な事だと痛感し、講師の先生の言葉をいつも胸に、働いています。

看護師として、診療所で働くことについて大病院で働く方と比べて、技術や知識が少ないことを不安に思っただけのことではありますが、自分にも家族にも無理せず、出来ることをしていこうと思っています。



育児休業中です

第一看護科 第24回生
奥田 浩子 (旧姓：服部)

総卒卒業後、助産師になるため進学しました。助産師になって春日井市民病院で10年が経っています。

その間、4人の子どもを出産し、現在育児休業中です。4人目は産後の心身の不安定な時期を初めて経験しました。

しかし、夫、子どものサポートでこの「総看だより」がお手元に届く頃には、職場復帰をしていると思います。

今後も気負うことなく働き続けていこうと思っています。





総合看護専門学校大講義室
40周年記念緞帳寄贈品



4月 耐震工事も終了しました

公開講座のご案内

日時：9月30日（日曜日）
13：30～16：00

アンケートのお願い

看護職の就業状況等に関する調査
にご協力をお願いいたします。

編集後記

投稿して頂いた卒業生の皆様、学校の先生方をはじめ在校生の方々のご協力により、会報第4号を会員の皆様にお届けすることができました。

今後も様々な場所で活躍している卒業生の近況をお伝えしていきたいと思っております。

ご協力頂いた皆様、本当にありがとうございました。

編集委員：鈴木邦子、鈴木知恵、江上菊代、山中賢治、林 鶴子、黒木留美子、田邊美穂

〒466-0826
名古屋市昭和区滝川町 36
(052) 832-8611

我愛知県立総合看護専門学校の
ホームページアドレス

http://www.
pref.aichi.jp/imukokuho/sogo-kango/

第一看護科 2年生 (第41回生)



私たちは2年生です。2年生は学校行事を中心になって企画・準備を行います。なかでも、学校祭は前年が台風で中止になったため、私たち2年生にとっては初めての経験で、実施を楽しみにしていたのでとても盛り上がりました。私たちのクラスでは、母性看護学の学習の展示と模擬店でホットク（韓国のホットケーキ!）の販売をして、校外のお客さんからも好評でした。授業では講義によって、専門領域の知識をより深めてきました。

私たちのグループでは、小児看護学実習のうち2週間の病棟実習へ行きました。小児看護学実習では、今までの基礎看護学実習などと異なり難しい部分もありました。小児は発達が未熟なため周囲の援助が必要なおことも多く、看護学生として患児や家族にできることは何かを考え、個性に合わせた沐浴、哺乳、オムツ交換などを実施することができました。援助を通して、児の笑顔や回復する姿を見ることができとてもうれしかったです。今回の実習では、患児や家族、指導者さん、先生から多くのことを学び、グループ内での協力もでき、充実した実習にすることができました。3年生の実習では幅広く実習します。病態生理や患者さんの個性などをより深く学習する必要があること、看護技術の向上が求められると先輩から伺っています。3年生では実習が続き忙しくなりますが、今回の実習のような気持ちを持ち続け、今後の実習に励んでいきたいと思っております。



平成24年度 公開講座



「看護の知識や技術を広く社会に紹介し、県民の健康や看護に対する関心を高めること」を目的とし毎年公開講座を開催しています。

平成23年度は「あなたに伝えたい『看護の技』－無理なくできる着替えの技術－」をテーマに、対象者の自立と援助者の安全・安楽を意識した移動の技術を17名の方が受講しました。「家族の介護の参考になった」「仕事に活用できそう」「技術指導者の数が多くわかりやすかった」と、参加者全員からとても満足できたというご回答をいただきました。

平成24年度も定員30名で開催します。

ご近所の方に参加していただくようお声をかけていただくと幸いです。



看護職カムバック研修



子育ても一段落し、看護の現場に戻りたいがプランクがあり不安・・・そう思っているあなた、参加してみませんか？

愛知県看護研修センターでは、「再就業を希望する看護職者の看護実践力と就業意欲を高め、職場復帰を容易にし、看護職員の確保に資すること」を目的に、平成15年度より看護職カムバック研修を行っています。通年で色々なコースを開催し、毎年200人～300人が受講し、受講後の就業調査では、アンケート回答者の65%～80%の人が再就業されています。受講者からは、「再就業に対する気持ちが強くなった」「注射が不安だったが少し自信がついた」など前向きな意見がきかれています。

あなたの周りにこんな方がみえたら、是非ご紹介ください。